

年度評価シート（令和6年度）

課名 文化政策課

施設の名称 静岡科学館	指定管理者名（公財）静岡市文化振興財団
1 履行状況	
(1) 目標達成 ア 施設利用者数 目標値250,000人 実績値196,372人（大人66,464人、小人129,908人）（前年度190,290人） 達成率78.5%（前年度比103.2%） 【参考】令和元年度（コロナ前） 目標値255,000人 実績値219,830人、達成率86.2% イ 事業満足度 目標値 95.0%、実績値 99.2%（前年度 99.1%） 達成率 104.4%（前年度比 100.1%）	
(2) 人員配置状況 事業計画書に則り、計画的に人員配置が行われている。 館長 【事業担当】 統括（次長） 担当長（主査） 副担当長（主任） 展示チーム 企画Aチーム 企画Bチーム 【管理担当】 統括兼担当長（次長） 広報チーム 総務チーム	
(3) 事業実施状況 静岡科学館の特徴である参加体験型の展示物の利用促進や、来館者とのコミュニケーションを図り、展示物の体験方法を解説する他、多くの集客が期待できる企画展や各種教室、ワークショップを開催するなど、業務仕様書及び事業計画書に沿って実施されている。 展示物について、コロナ禍で休止していた「ふしぎな映像の部屋」のVR映像コンテンツを、錯覚映像と関連する体験展示にリニューアルを行い、来館者から好評	

を得た。科学への理解を深める事業として実施している「科学教室」では、親子教室の実施回数を増やし、保護者も体験的に学ぶことで、家庭に戻ってから継続して探究的な学びに取り組んでもらえるような事業を展開した。また、「オトナときめくサイエンス」では、鉱物、染物、ロボットと様々な科学分野を取り上げた講座を実施した。20代から70代以上の幅広い年齢層が参加し、新たな来館者層の開拓に繋げた。

地域との連携推進事業では、7事業を実施し生涯学習センターや「ま・あ・る」など地域の施設、企業、大学と連携し、当指定管理者の強みと連携先の持つ技術やコンテンツを活かした特色ある事業を展開した。

ボランティアとして育成している「る・く・るナビゲーター支援事業」の活動は、昨年度に比較して7人増の82人の登録があり、1,037人の活動数があった。ナビゲーターの多くは自主活動やイベント前に行う研修にも積極的に参加し、ボランティア指導者としての質を高めている。また、「科学コミュニケーター育成講座」では、卒業した7人全員が新たなイベント計画を進めるなど科学コミュニケーション活動の幅を広げており、静岡科学館が人材育成に取り組んできた成果であると評価する。

主な事業の参加者数は以下のとおり。

事業名	来場者数	目標値	達成率
サイエンスショー(全14回)	3,875人	4,000人	96.9%
テーブルサイエンス(全16回)	2,597人	1,650人	157.4%
わくわく科学工作(全14回)	2,519人	2,200人	114.5%
めばえのかgak(全12回)	634人	600人	105.7%
る・く・る展示トーク(全31回)	1,575人	900人	175.0%
オトナ楽しむカガクカン(全6回)	623人	480人	129.8%

(4) 維持管理業務

展示物をはじめ、空調設備、エレベーター、防火シャッター、券売機の保守点検、建築基準法に基づく遊戯施設、昇降機の定期点検及び館内清掃業務について、専門知識を有する第三者委託により実施し、各業務とも事業計画に従って適切に行われている。

また、「あーくしゅ(黄色の手)」部品交換修繕他25件の修繕を適宜実施し、来館者が安全で快適に利用できるよう努めている。

その他、消防設備、機械警備及び防火対象物定期点検等、ビルの管理組合が一括して行う保守点検業務について、管理組合と連携し適切に行われている。

(5) 市との連携

静岡科学館の管理に係る協定書第5条で定められているとおりに、毎月終了後10日以内に、当該期間中に実施した業務についての定期報告書及び期間終了後2か月以内に当該年度における事業報告書が市に提出されている。

(6) 危機管理

展示物を安全に使用していただくため、開館時の全展示物の稼働テスト及び閉

館時の状況把握、施設内の巡回等、建築物や各種設備について異常がないか確認をしている。また、緊急時等における来館者の避難誘導については、指定管理者である（公財）静岡市文化振興財団が定めている「震災等対策計画」等により非常時に備え、職員研修や避難訓練等を通じて、起こりうるさまざまなリスクに対し万全な体制を確保しており、緊急時・非常時には適切に避難誘導できる体制が整っている。

【確認結果】

○：協定書等の内容が適正に履行されている。

2 市民（利用者）からの意見・要望の内容とその対応状況の評価（クレーム対応 等）

【具体的な意見・要望の内容と対応状況】

〈職員の対応等に対する意見〉

利用者からの意見①：

並ぶ場所がわかりにくいのか、並ばない子供が多いような印象を受けました。

対 応①：

パーティションや床に貼ったライン等で待つ列をわかりやすく表示しているが、夏休みに入り順番の列が長くなることもあるため、パーティションを増設したり巡回スタッフの声がけを強化する。

利用者からの意見②：

大人向けのイベントをもっと開催してほしいです。

対 応②：

今年度は年6回、大人限定の夜間開館を実施しており、同日に大人限定講座も行っている。また、大人も楽しめるトークイベントも毎月開催している。ほかの事業の実施回数との兼ね合いも踏まえて検討していく。

【検証・分析等】

利用者からの意見・要望に対しては要望等に対し、概ね適切な対応がとられている。即時の対応が困難である要望に対しても前向きに検討しており、良好な対応がなされているといえる。

【確認結果】

○：適切に対応し、改善すべき事項は対応済み、又は改善に向けて作業中である。

3 市民（利用者）へのアンケートや満足度調査の状況評価

今後の施設運営へ反映させるため、施設利用者を対象にアンケート調査を実施した。

【調査結果】

回答者総数：531件、「満足」「やや満足」と回答した人の割合：92.3%

（前年度 総回答数：614件、「満足」「やや満足」と回答した人の割合：90.3%）

- | | |
|-------------|------------------|
| ① 職員の応対 | 93.6%（前年度 89.4%） |
| ② 清掃、整理整頓 | 94.4%（前年度 93.8%） |
| ③ 案内表示、掲示板 | 91.3%（前年度 89.9%） |
| ④ 開館日・開館時間 | 90.4%（前年度 89.9%） |
| ⑤ 空調・音響・照明等 | 91.9%（前年度 88.6%） |

【検証・分析等】

5項目の平均値で算出した満足度は92.3%（前年度 90.3%）であり、すべての項目が高い水準であることから、良好な評価を得ている。

【確認結果】 ○：調査の結果が概ね良好である。															
4 指定管理者の経理状況の評価															
【収支状況】 指定管理業務についての収支状況については、適正に執行されている。 【検証・分析等】 <table><tr><td></td><td>収入</td><td>支出</td><td>収入－支出</td></tr><tr><td>令和5年度</td><td>245,351,968 円</td><td>239,550,452 円</td><td>5,801,516 円</td></tr><tr><td>令和6年度</td><td>247,864,387 円</td><td>244,634,499 円</td><td>3,229,888 円</td></tr></table> 前年度及び今年度ともに支出超過は見られず、チケット収入においては来館者数が前年比 6,082 人増加したことにより、令和5年度 30,085,484 円に対し、令和6年度 31,865,715 円と、約 178 万円増加したことから、良好な収入状況である。 【確認結果】 ○：安定的な施設運営を行っており、また今後も継続できる見込みである。					収入	支出	収入－支出	令和5年度	245,351,968 円	239,550,452 円	5,801,516 円	令和6年度	247,864,387 円	244,634,499 円	3,229,888 円
	収入	支出	収入－支出												
令和5年度	245,351,968 円	239,550,452 円	5,801,516 円												
令和6年度	247,864,387 円	244,634,499 円	3,229,888 円												
5 総括的な評価（課題事項・指摘事項及びそれらの改善状況 など）															
前年度事務事故発生の有無		有													
前年度モニタリング調査における改善協議事項の有無		無													
【検証・分析等】 〈前年度事務事故発生について〉 令和6年7月15日、科学館の展示物運用及び点検口のカギ3本を紛失する事故が発生した。紛失した鍵の取り換えを行い、鍵を使用する際の運用方法や保管方法を見直し管理を徹底する等対策を行った。 指定管理業務全般について、業務仕様書や事業計画書に従い良好に実施されている。 事業全般について、体験型科学教育の視点に立ち、科学コミュニケーション活動を展開することで満足度の高い事業展開ができています。地元の大学や民間企業、研究機関等と連携し、各々が有する科学技術や研究活動について市民へ紹介するという工夫がみられ、静岡科学館の基本運営理念としている「Hands-on 科学館」を軸とした体験的な学びを普及している点が高く評価できる。また、大人層のニーズ掘り起しについても成果を得ており、新たな来館者層を開拓し、多くの市民に科学に触れる機会を提供することができている。 広報活動については、紙媒体、電子媒体のほか、SNSを活用した情報発信を行った。若年層の関心が高いショート動画の積極活用や、動画構成等、来館に繋げる効果的な広報手法の開発に取り組んでいることは大いに評価する。 今後とも積極的な広報活動や、展示の工夫、市民のニーズに応じた事業の展開により、幅広い年齢層の市民に対して科学へ関心を持つ機会を提供し、利用層の拡大に努めてほしい。また、静岡市文化振興財団が有する科学分野専門職員の人的資源や、指定管理者として蓄積している科学のノウハウや他施設等との連携といった強みを活かした施設運営を期待したい。 【評価結果】 ○：良好な管理運営であった。															

※事務事故が発生したとき及びモニタリング調査において改善に向けた協議があったときは、必ず改善状況を記載すること。